

農薬散布量を従来より大幅に削減できる「かごしま式防除装置」の開発

背景

- 近年、天敵の注目度が上昇
- 天敵の保護活用を図る技術が必要
- 農薬代は生産コストにつながる
- 安心・安全の確保のため、化学農薬を可能な限り使用しない茶づくりが求められている

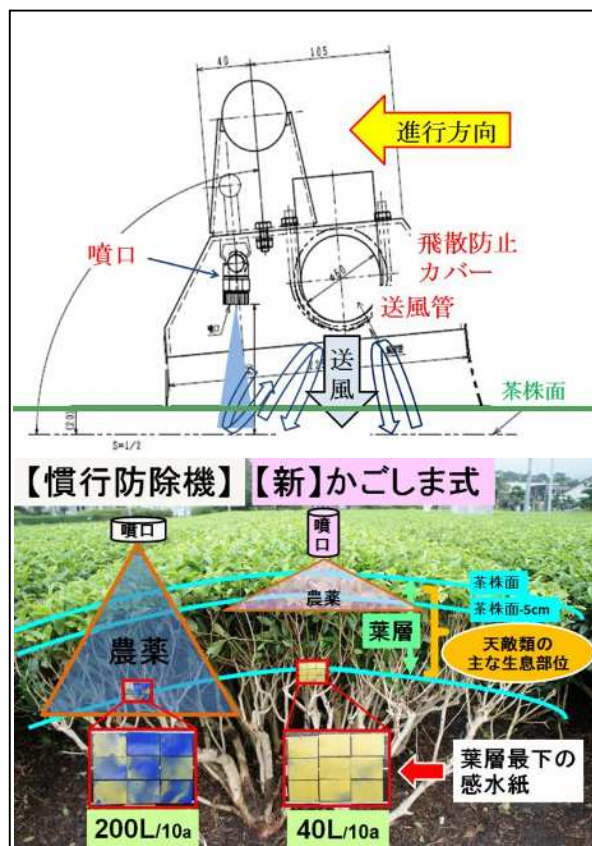
目的

- 化学農薬の散布量の大幅な削減
- 防除効果の維持と天敵類の保護活用を両立する新たな装置の開発

研究内容

- 農薬を少量で効果的に散布する「かごしま式防除装置」を開発
- 当該装置の少量標的散布による防除効果を検証
- 少量標的散布による天敵類の保護活用効果を検証

成果の内容・特徴



茶業部

- 微細化した薬液噴霧と送風機能を組み合わせ、茶株面付近に農薬を付着させる

- 少量の農薬を標的とする茶株面に絞って散布する(少量標的散布)
- 天敵は慣行防除により「害虫の巻き添え」となる
- 天敵類の保護と間接的な防除効果

今後の展開

- 農食研究事業(27019C)により、少量標的散布の各種効果について研究中
- 「かごしま式防除装置」の販売開始(平成28年)